

# 国立大学法人浜松医科大学の平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

浜松医科大学は、優れた臨床医と独創力に富む研究者の養成、独創的研究及び新しい医療技術の開発の推進、患者第一主義の診療を実践して地域医療の中心的役割を果たすことにより人類の健康と福祉に貢献することを目指している。第2期中期目標期間においては、先端的・学術的領域の基礎研究・臨床研究において、大学の特色を活かした産学官連携を推進し、研究成果を社会へ還元すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「産学官共同研究センター」を開設し、地域のものづくり技術と医療技術ニーズの融合による健康医療産業の事業を促進する「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業」の中核機関として周辺中小企業と共同研究を実施し、医療機器等の開発・事業化を中心に医工連携を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 修士学位をもつ看護幹部職員の育成を図るため、大学院修士課程に進学する看護職員に対し、経済的支援制度を創設し、2名が進学している。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて**順調**に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

#### (2) 財務内容の改善に関する目標

(①収支の改善、②資産の運用管理の改善)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 開発を進めてきた「内視鏡手術用ナビゲーションシステム」について、国内で初めて製品化に成功し、販売を開始している。
- 平成23年4月に開設した産学官共同研究センターに、PET-CT装置やレンタルラボを整備し、外部企業が利用を開始している。

- 科学研究費助成事業について、新たに申請書の書き方セミナーを実施した結果、受講者の中で申請した 59 名のうち、26 名が採択されている。
- 総人件費改革を踏まえた人件費削減については、平成 18 年度からの 6 年間で 6 %以上の削減が図られている。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

( ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進 )

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

( ①施設設備の整備・活用等、②法令遵守 )

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

**II. 教育研究等の質の向上の状況**

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 卒業後のキャリアパスの明確化を図り、これを支援することにより質の高い臨床医を育成することを目的として、「臨床医学教育学講座」を設置している。
- ハイリスク分娩を取り扱える産科医及び新生児集中治療を出来る小児科医の周産期専門医を養成するため、県の協力を得て「地域周産期医療学講座」を設置し、新生児と産科の臨床体制と研修体制の充実を図り、周産期医療従事者養成のためのハードとソフトを整備している。
- CBT (Computer Based Testing) 試験が一定水準以下の学生、昨年度の国家試験不合格者を個別にフォローした結果、医師国家試験合格率が向上している。

- 大学院医学系研究科（博士課程）において、国際学会等での研究発表を推進し、海外での学生の研究発表に対し、経済的支援を行っている。
- 医学科1～4年次を対象に、11地域医療機関での夏期実習を実施した結果、実習前後のアンケート調査により、「将来地域医療に従事したい」学生が10%増加し、地域医療に対する関心が高まっている。

## **附属病院関係**

### **（教育・研究面）**

- 静岡県の補助を一部受けて高機能シミュレーター等を配備した、シミュレーションセンターが平成23年10月に完成し、静岡県内に勤務する中堅医師及び後期研修医を対象として研修指導医の育成を開始している（2回実施、18名受講）。
- 救急医療・災害医療への取組・運用方針を見直し、院内職員の応援体制を強化するとともに、発災後の病院対応マニュアル及びアクションカードを新たに策定し、医学生、研修医を含む全職員向けのスキルアップ講習会を定期的に開催している。
- 平成23年10月に、浜松市と磐田市の6病院（総病床数3,737床）及び浜松市医師会と連携して「とおとうみ臨床試験ネットワーク」を開設し、メガホスπιタル規模で治験を実施できる臨床試験体制の基盤を確立している。

### **（診療面）**

- 「子どものこころの診療所」を浜松市が開設し、診療所、国立病院機構天竜病院、浜松医科大学の三者が連携して子どもの心を治療する全国初の試みがスタートしている。

### **（運営面）**

- 検査部の受付時間を15分早めることにより、診察開始に併せて検査結果が届くようにし、患者の待ち時間を軽減し、朝の採血場所の混雑を解消している。
- 附属病院における財務運営について、財務諸表上の附属病院セグメントと事業報告書上の収支の状況により、それぞれの観点から運営上の課題等について、今後十分な説明責任を果たすさらなる努力が期待される。

## **Ⅲ. 東日本大震災への対応**

- 被災地に医療救護班のほか、神経内科医、糖尿病専門医及び泌尿器科医を派遣している。
- 精神科医や臨床心理士が被災地の小・中・高等学校で心のケア活動を行っている。
- 被災地区の医科大学・病院への文献提供、帰省中の被災大学生への図書館開放等の支援活動を行っている。
- 被災した入学志願者に対し、入学検定料を免除する経済的支援を行っている。